

第 236 回原医研セミナー

第 1 回放射線災害・医科学研究 機構・拠点 研究推進ミーティング

開催日時：2022年9月27日（火）17時30分～

開催方法：オンライン（Zoom）

演題：来たれ若人！放射線災害医療へのいざない

講師：原爆放射線医科学研究所 放射線災害医療研究部門

放射線災害医療開発研究分野 教授 廣橋 伸之先生

東海村 JCO 臨界事故、東京電力福島第一原発事故など特徴的な放射線事故・災害の対応における教訓を基に、新たな放射線災害医療体制の構築・再編成が現在進行中です。その中で、依然多くの課題が残存しており、特に多数傷病者を伴う原子力災害においては発災前後問わず、その医療体制整備に多職種・多分野の人材が求められています。例えば高線量被ばくや内部被ばくに対する新しい診断法・治療薬の開発や、多数傷病者の診療・搬送体制整備にも多くの理解者と協力支援が欠かせません。放射線災害医療は日常診療や研究活動ではまず接することのない低頻度の分野であり、東海村臨界事故はおろか 11 年前の福島原発事故でさえその記憶が薄れつつある中、この分野に興味を持つ臨床医・研究者は限られてきています。ウクライナ侵攻のような想像を超えた状況も我が国でありえないとはいえない世界になってきており、本セミナー・ミーティングに参加の若き臨床医・研究者の皆さんも、自分の生活範囲だけは大丈夫と思いつまらず「自分の事」に置き換え、次に来るべき放射線事故・災害に向かってこの分野で活躍してくれることを切に願っています。

演題：腫瘍核医学—現状と将来展望

Nuclear Oncology—Current Status and Future Prospects

講師：原爆放射線医科学研究所 放射線災害・医科学研究機構

特任講師 石橋 愛先生

核医学検査は微量の放射線を出す放射性医薬品を体内に投与し、その体内分布を画像化することで、臓器や病変部位の代謝、血流、受容体分布などを評価する画像検査である。日本国内では 2002 年に糖代謝を評価する FDG-PET の保険適用が承認され、CT や MRI などの形態画像のみでは指摘しにくい腫瘍病変が診断できるようになった。さらに複合型 PET/CT 装置の登場により、診断精度のみならず、確信度の向上も得られ、現在のがん診療において重要な画像診断として広く利用されている。近年、半導体検出器を用いたデジタル PET/CT が国内でも導入され、画質や定量性の向上が期待される。広島大学病院では 2022 年 3 月に PET/CT 装置の更新により、デジタル PET/CT 装置が導入された。本講演では、核医学検査の基礎的なこと、および当院のデジタル PET/CT 装置の特徴について臨床症例を交えて紹介する。

連絡先：広島大学霞地区運営支援部総務グループ（原医研主担当）

082-257-5802（内線 5802）